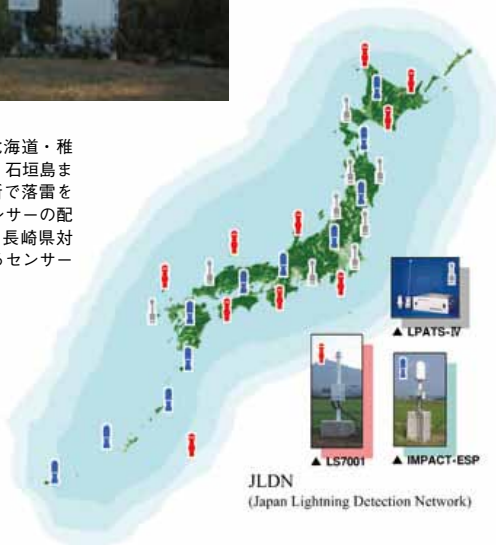




(写真右) 北は北海道・稚内から南は沖縄・石垣島までの全国30カ所で落雷を計測しているセンサーの配置図。(写真左) 長崎県対馬に設置しているセンサー「LS7001」。



『300万』、何を表している数字だと思えますか。
これは2011年の1年間に発生した、周辺海域を含む日本列島の落雷の数です。
この雷の脅威から人命、財産、社会インフラを守ることを目的に、最新センサーと蓄積したノウハウを用いて雷を観測・予測している企業が、相模原市にある『株式会社フラ

ンクリン・ジャパン』です。
社名の「フランクリン」の由来は、「雷の正体が電気である」ことを発見し、後にアメリカ独立にも多大な貢献をした『ベンジャミン・フランクリン』にちなんでいます。
全国規模の雷観測ネットワークとしては、日本初かつ唯一となる、全国雷観測ネットワーク (JLDN : Japan Lightning Detection

Network) を構築・運用し、北は北海道・稚内から南は沖縄・石垣島までの全国30カ所 (2011年12月現在) で落雷位置・時刻・電流値などを計測しています。その正確で信頼性のある観測を365日・24時間リアルタイムで行えることが、気象関係者の中で「雷情報といえば、フランクリン・ジャパン」と言われる理由です。

D A T A
会社名：株式会社 フランクリン・ジャパン
代表者：稲束 隆一
所在地：神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-12
TEL : 042-775-5656
URL : <http://www.franklinjapan.jp>

21 Unique Companies
in Sagami-hara
and Tama

FILE 11

【株式会社 フランクリン・ジャパン】 正確な観測・予測で 雷の脅威から人々を守る

日本で唯一の全国規模の雷観測ネットワークと
仕事を楽しむスタイルが生み出すシナジー

取材・文=貫井政文

11

21 Unique Companies
in Sagami-hara
and Tama

FILE

【株式会社 フランクリン・ジャパン】



気象予報士による電話サポート風景（サービス提供企業からの問い合わせに対して、様々な天気図やモニターを見ながら対応する）

「社員が仕事を楽しく、人生の一部でもある仕事の中で成長してもらいたい」と熱く語る、2002年から同社社長を務める稲束隆一社長。

同社は、雷の保守・保全機器を製造販売している親会社である『株式会社サンコーシヤ』によって、気象予報を踏まえて雷を観測し、予知・予測した情報の販売会社として1991年5月に設立されました。それ以降、全国で均質な雷情報サービスを提供できる唯一の会社として知られており、雷観測情報の販売、雷観測と気象予報を踏まえた雷予測情報の販売を事業として発展し、現在では、電力、通信、鉄道などのインフラ系の企業や、ゴルフ場、工場、一般消費者などへと顧客を広げ、20年を超える実績を重ねてきました。あらためて気にすることも少ないですが、私たちが、あるテレビ局の全国放送で利用されている落雷情報や、大手検索サイトで利用できる落雷情報などは、同社が提供している雷情報なのです。

雷情報を必要とする顧客は、大きく3つのグループに分けることができます。まず1つ目のグループは、公共性が高いインフラ会社（電力会社、鉄道会社、通信会社など）やものづくり工場。電力を止めないために落雷場所を特定させたり、事前に自家発電に切り替えたりするた

仕事を 楽しんでもらいたい

2002年に同社の社長に就任した稲束隆一社長は、世の中になく特徴的な製品を生み出すために、「社員に仕事を楽しんでもらいたい」と公言しています。

「当然ながら人間には感情があるし、機械の代替ではないので、本当に楽しいことを続けなければ仕事の成果も残せないし、人生もつまらな

くなる」とも。社長がこのように明言する会社で働いている社員はとても幸せであるように見えます。

稲束社長がこのように言うのも社長自身の前職での経験があるからです。上司から常に「何がやりたい？」と聞かれて、自分のやりたいことに従事させてもらい、非常に充実して仕事が楽しかったという経験から、「自分が上司・経営者だったら同じようにしたい」と強く考えているからです。

さらに、「人間の頭在化された能力なんてごく一部だから、見えない部分をどのように引き出すかが社長や上司の仕事」と言うように、社員の見えない能力を伸ばすことにも非常に熱心です。そのため社長は「社員が小さな満足に安住して、これでもいいんだと思ってほしくない」とも考えていて、社員が楽しく働くだけではなく、人生の一部でもある仕事の中で成長してほしいという熱い思いがあります。

同社のマネジメントには大きな特徴が2つあります。1つ目は、社員に任せること、2つ目は、チームで協力することです。

「社員に任せること」は、任される

ことで裁量も増えるためにチャレンジしやすい環境をつくり出し、社員のやる気を向上させることに成功しています。営業部の今村課長が、「営業でも技術でも、お客様と直接やりとりすることが多いため、お客様との距離が近く、信頼や評価をしてもらっていることを実感しています」ということから、社員に任されている様子が見られます。

「チームで協力すること」は、管理部門を含めて総勢20名で、センサー設置・メンテナンスから製品開発・システム構築・営業まで、川上から川下までのサプライチェーンを自前で構築しているため、同社では一人ひとりが複数の役割をこなす必要があります。そのためにもチームでの協力・協創体制が欠かせず、同社のコミュニケーションの活発化に繋がっています。

「他社と違う点はどこだと思いますか？」と社員の方へ質問したのに対する、以下のような答えも、同社の特徴をよく表しているのではないのでしょうか。

・技術部兼システム営業部の松井部長（以下、松井氏）：「裁量が多く自由で、自分の責任の中でフレキシ

ブルに働ける」

・営業部の今村課長：「社員の意見でも上司や幹部に声が届くなど、一人ひとりが会社に影響力を持っている」

・営業部の岸田さん：「小規模な会社で顔が見える関係性なので、やらされている感がなく、複数の役割を同時に経験できる」

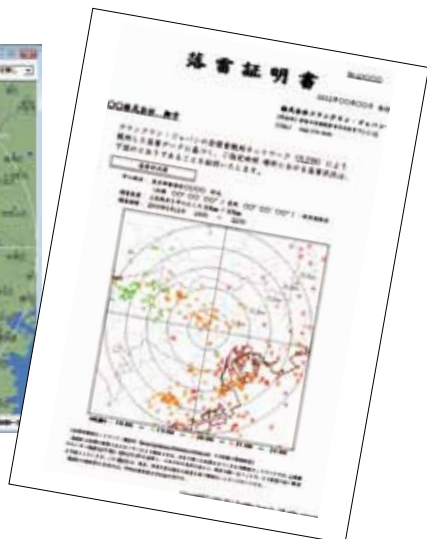
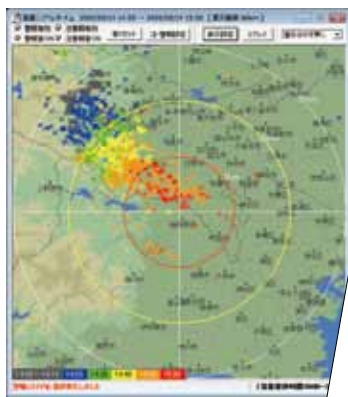
シンプルイズベスト

「社員に任せる」経営スタイルの社長ですが、製品開発にはぶれない軸があります。

「お客様が誰で、何を欲しがっているかを理解できないと、お客様に喜んでもらえるサービスにはならない。自分たちを大事にして、売りたいサービスをつくるのではお客様は離れてしまう。つまり、儲けを考え余分な機能をつけることなく、お客様にメリットを感じていただける機能のみに絞って、見栄えよく提供したい」と稲束社長は語っています。

社員総勢20名（2012年2月現在）のうちで製品開発に関わるのは、システムエンジニア（以下、技術と表記）と営業部、気象予報部の

（写真左）雷が発生してからわずか15秒で雷情報を表示できる「Lightning Scope」の画面イメージ。（写真右）落雷状況の証明書として利用できる「落雷証明書」の例。





「雷を含む気象分野で蓄積したデータとノウハウを生かしたコンサルティングを手掛けたい」と語る、技術部兼システム営業部部長の松井倫弘さん。



「フランクリン・ジャパンの観測データを誰もが活用できるような環境を築きたい」と抱負を語る、営業部課長と広報担当の今村益子さん。



「自分自身が成長していくことを目標として、もっと責任のある大きな仕事をやりたい」と抱負を語る、営業部と広報担当の岸田拓己さん。

計17名（うち、気象予報士10名）です。そのようななか、社員それぞれに自分たちの製品としての思い入れも強いので、営業・技術どちらが主導というわけではなく、開発途中で度重なるディスカッションを行い進めていきます。もちろん、ときには侃々諤々やりあうことも健全な姿として歓迎されていますし、上司の意見であっても臆せず評価・検討できる点などが同社の企業文化であるとも考えられます。こうして部署や上下の隔たりなく、一人ひとりが自分の製品と感じながらものづくりを進める様子は、社内に活気が満ちている証拠です。

「できないではなく、どうやったらできるのかを考えて、実現すること

ができる社風」「背景がわからないと良いものにつくれないけれども、技術もお客様と直接話すため、お客様が望む背景を理解したうえで開発できるので取り組みやすい」と松井氏が評していることから、同社の開発に対する姿勢がわかります。

このようにして誕生したサービスは数多くありますが、その中から「Lighting Scope」と「落雷証明書」の2つを代表的なサービスとして紹介します。

「Lighting Scope」は、リアルタイムの雷情報サービスで、雷が発生してからわずか15秒でリアルタイムの雷情報を表示できるのが大きな特徴です。

その他、雷が近づいたときの警

報、3時間ごと48時間先までの発雷確率予報などの特徴もあります。このサービスの顧客は、ゴルフ場、工場、電力・通信・鉄道などのインフラ企業ですので、さらにメリットを感じられる機能を加えた後継製品を2013年春に発売する目標を立てて、現在開発を進めています。

「落雷証明書」は、落雷の影響による設備や機械、パソコン、電話機、テレビなどの機器が故障した際に、落雷状況の証明書を発行するサービスであり、保険請求時の資料にもなる書類です。

人が財産

稲束社長は、サービス開発や会

とで益々やる気も高まる」という理想的な好循環が続いている様子がかがえます。

この先も進化した雷情報を！

今後、IT化や顧客保護がさらに進展することを考えると、ケーブルを使ったインフラ、パソコン、大型テレビや屋外レジャー（ゴルフ、野球、サッカーなど）への雷のリスクは増大することでしょう。そのため、同社は2012年春以降に、新型高性能センサーへの

設備投資を推進する計画をしており、今までにない新たな機能を付加したサービスも期待できます。このような雷を取り巻く環境の中で同社の夢は、「お客様という一部の限られた対象ではなく、防災情報のように、誰でも利用できるような情報環境を構築したい。そのためには気象の知識を十分に踏まえ、短期的にも、中・長期的にも、今にも増して精度が高く使いやすい雷情報にしていく」とのことです。このような意気込みを持つ同社の存在を知っていますと、この先の雷情報の進化が楽しみです。



営業部と気象予報部のオフィス内風景。部署の隔たりなく、密接にコミュニケーションがはかられている。



「落雷事故防止マニュアル作成の手引き」を発行し、日本ゴルフ場支配人会連合会に加盟している約2,000カ所のゴルフ場に配布している。

21 Unique Companies in Sagamihiro and Tama FILE 11 【株式会社 フランクリン・ジャパン】

本書インタビューの際に、本社エントランス前で撮影した集合写真。